報告

山口県立大学所蔵服飾資料（その1）
1960年購入の婦人用ツーピース

Clothing materials in the collection of Yamaguchi Prefectural University (No.1)
Women's two-piece suit of 1960

松尾　量子・下川まつゑ
MATSUO Ryoko ・SHIMOKAWA Matsue

Yamaguchi Prefectural University has clothing materials dating back to the days of Yamaguchi Women's Junior College and Yamaguchi Women's University in its collection as course materials. In this report, we present a women’s two-piece dress purchased at Mitsukoshi in 1960, out of more than 50 pieces of clothing materials, including dresses and jackets, for which the date of purchase and price are clear.

１　はじめに

山口県立大学には、授業教材として収集され保管された洋服や着物などの現物資料がある。これらの多くは、山口女子短期大学および山口女子大学時代に収集されたものであり、当時の被服教育における衣服制作の状況を伝える資料であるが、入手経路や時期を示す資料がなく、現物のみが残っている。今回は、ワンピースやジャケット等50点余りの洋服資料[1)]のうち、購入時期や価格が明確な1960年に三越で購入されたツーピースについて報告する。

２　三越で購入した服飾資料

現存する洋服資料のうち、三越のネームタグが付いたものは、８点で、アイテムとしてはジャケット４点、スカート２点、ハーフコート１点、ワンピース１点である。その他、ネームタグはないが、素材からみてジャケットとのアンサンブルであると思われるワンピースが１点あるので、表１に示す計９点が三越で購入されたものである。このうち、上衣とスカートあるいはワンピースを組み合わせたツーピースとなっているものが４セットある。今回報告する№1、№2のみ、購入時期と価格が明確である。

No.	アイテム	色	ネームタグ
1	ノーカラージャケット	赤紫、ブルー、グリーン	Exclusively made mitsukoshi tokyo
2	タイトスカート	赤紫、ブルー、グリーン	Exclusively made mitsukoshi tokyo
3	テーラードコート	くすんだベージュピンク	Exclusively made mitsukoshi tokyo
4	ワンピース	くすんだベージュピンク	Exclusively made mitsukoshi tokyo
5	ショールカラージャケット	紫	Exclusively made Mitsukoshi Tokyo
6	タイトスカート	紫	Exclusively made Mitsukoshi Tokyo
7	ステンカラージャケット	ベージュピンク	Exclusively made Mitsukoshi Tokyo
8	ワンピース	ベージュピンク	
9	テーラードジャケット	赤、グレー	Mitsukoshi Tokyo

表１　三越のネームタグがついた服飾資料

３　1960（昭和35）年購入の婦人用ツーピース（写真１，２）

本資料は、濃い赤紫の地に青と緑の大きなチェック柄の上衣とタイトスカートからなるツーピースである。写真３に示すように、ネームタグには、「Exclusively made mitsukoshi tokyo」とある。裏地には、「山口女子短期大学　昭和三十五年十月購入　価格八､八〇〇円　ツーピース上下」と記載した白布（写真４）が

写真1　前面

写真2　後面

写真3　三越のネームタグ

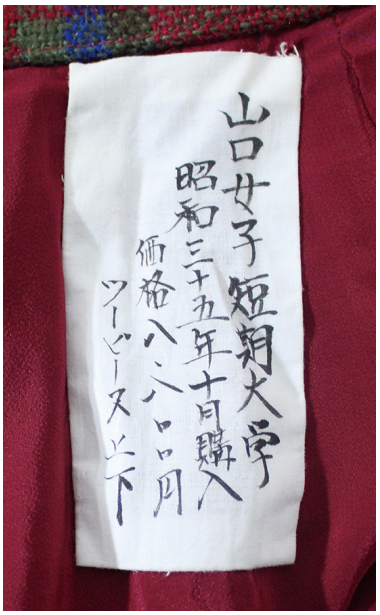

写真4　購入年・価格の記載

縫い付けられており、購入時期と価格を確認することができる。上衣およびスカートの平面図および寸法は図１に示すとおりである。

１）上衣

上衣はノーカラーで、前身頃にはサイドダーツ、後身頃には肩ダーツが入っている。前身頃のみ布地の地の目を斜めに使うバイアス裁断となっており、襟ぐりから肩にかけての美しいラインが作られている。ウエスト位置が軽く絞られていることで、全体として柔らかな丸味が作られている。袖は、肩を少しおとした位置で付けられている。袖は肘の位置にダーツが入った１枚袖である。袖丈は七分丈である。

前中央の大きな第一ボタンとウエスト位置中央の共布のリボン飾りがデザインのポイントであるため、第二ボタン、第三ボタンは表からは見えないように比翼仕立で処理されている。第一ボタンのボタンホールは玉縁仕上げである。また、左身頃裏には、内ポケットがあり、ポケット口には、今日ではほとんど見ることのない、リックラックと呼ばれる小さな三角形の布を並べた装飾が付けられている。（写真６）

写真5　上衣

写真6　上衣　内ポケット

2）スカート

スカートはタイトシルエットで、前ウエスト、後ウエストにそれぞれ４本のダーツが入っている。スカートの後ろ中央は、襞（プリーツ）分を入れて裁断されており、裾から約26cmあたりまで、縫い合わされることで裾に歩行時に必要な裾幅をつくり出す襞が形成されている。襞には拡がりを防ぐため仕上げのしつけがかけられているが、購入時のものであるかは不明である。左脇にファスナーがつけられており、脇の縫い代はロックミシンで処理されている。裾の布端は、ロックミシンで処理されるのではなく、バイアステープでくるまれ、奥まつりによる処理（写真７）がなされている。裏地は、横地づかいで、スカート丈の３分の２くらいの長さである。（写真８）このような裏地の扱いは、今日ではあまり見ることはない。

写真7　スカート　裏側　裾部分

写真8　スカート　裏側

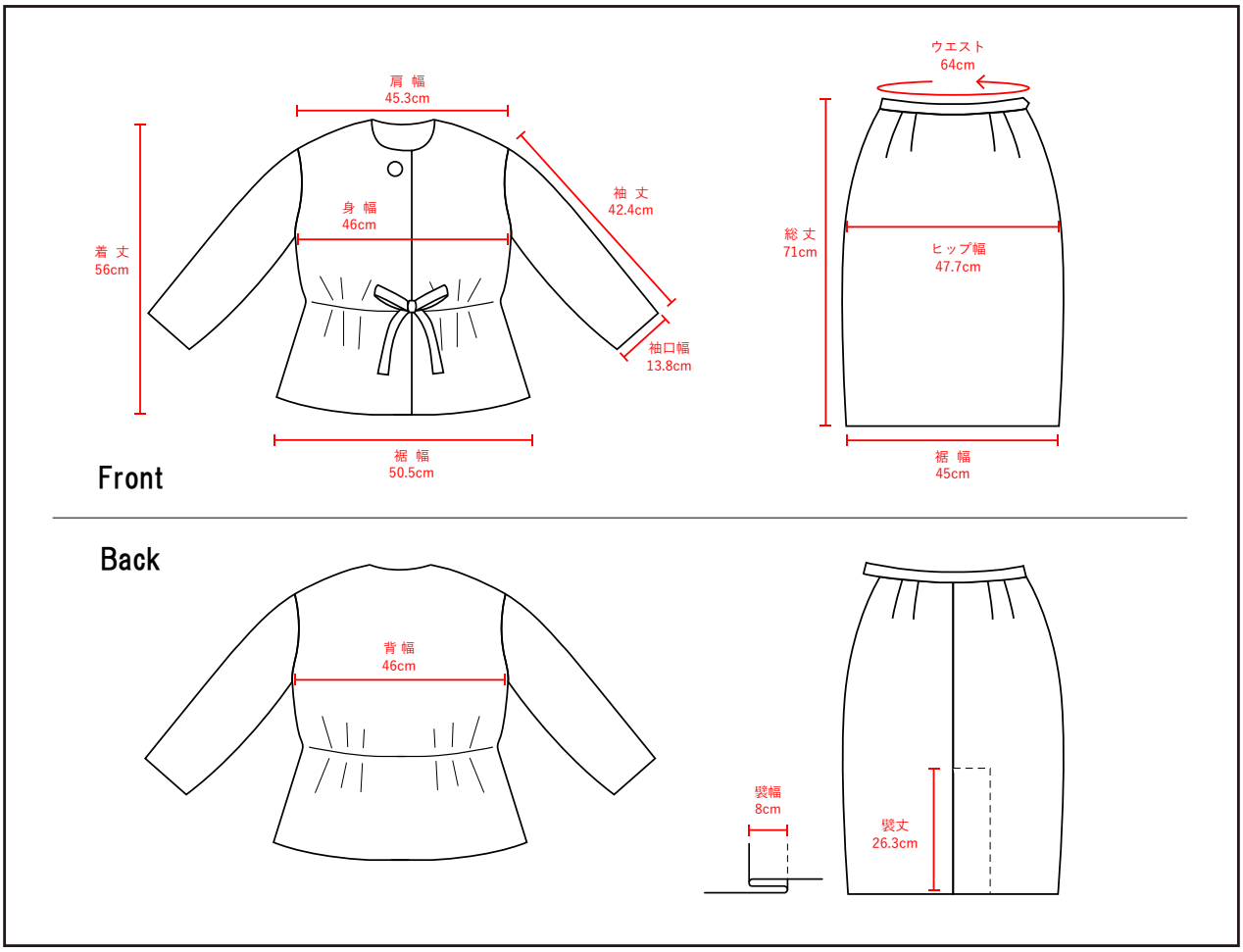

図1　平面図

４．考察

1960（昭和35）年当時、日常着を中心に既製服の購入が増えていたが、本資料のようなツーピースは、仕立服あるいは家庭裁縫がその主な入手経路であった[2)]。1960年に創刊された『ハイファッション』は、パリコレクションやデザイナーの作品など最新のファッション情報を伝える雑誌である。６月発行の『ハイファッション』２号は、1960－61年に秋冬のコレクションと共に「秋のスーツ」を特集しており、「通勤、外出、旅行など着用範囲が広いように考案された」原のぶ子[3)]のデザインによるグレー系のチェックのスーツが掲載されている。ノーカラー、ゆったりした袖、ウエストマークされた「単純な形」[4)]は、本資料にも通じるものである。この他、『朝日新聞』に1959年から約10年間掲載された「水曜洋裁店」には、「融通のきくジャケット」（1960年10月12日）、「若い人のセパレーツ」（1960年11月23日）にノーカラーのシンプルなジャケットを見ることができ、当時、広く好まれたデザインであったと考えられる。

本資料は、前身頃がバイアス裁断であることが特長であると言える。原のぶ子デザインのスーツ、水曜洋裁店掲載のジャケット共に、身頃は縦地で裁断されており、襟元から肩のラインは、後身頃肩のダーツによって作られている。本資料では、バイアス裁断によって、襟元がすこし立ち上がり気味のやわらかなラインが作られている。これは大柄なチェックを生かしたデザインであるとも言えるが、裁断、縫製ともに高い技術を要するデザインでもある。この他、上衣の内ポケットのリックラックやスカートの裾の始末など、今日の服作りでは、あまり使うことのない縫製技術を確認することができた。

1）この他、洋裁に関するものとしては、ポケットやファスナー付けなど部分縫いや縫製工程を教授するための教材が残されている。
2）木下昭浩「日本におけるアパレル産業の形成」、Fashion Talks、Vol.3、京都服飾文化研究財団、2016、p.42
3）原のぶ子（1901－1997）服飾デザインナー、服飾研究家。
4）『ハイファッション』2号、文化出版局、1960年6月、pp.14-15